

No. 1489

都市に緑を

第二回全国都市緑化フェア開会式典が中曽根首相、水野建設大臣等が出席して10月5日東京・日比谷公会堂で行なわれました。中曽根首相は「21世紀迄に都市の緑を3倍に増やす努力をします」とあいさつ。福田日本さくらの会会長より鈴木都知事へさくらの苗木2000本の目録が贈呈されました。また中曽根首相から「花の輪」運動を実施している地元の児童代表へ園芸用具を贈りその努力をたたえました。お隣の日比谷公園では「つくろう ふるさと東京の緑を」のテーマにそった催しが公園全体を使って展示されています。中でも人気を集めているのは昆虫館。蝶の舞う館内は植物と生物のつながりを示して緑の大切さを教えてくれます。緑をふやして気持ちのよい都会生活をおくりたいものです。

地上に降りた金シャチ

「尾張名古屋は城でもつ」城は名古屋のシンボルであり、「金シャチ」は名古屋市民の誇りです。この「金シャチ」が地上に降されることになったのです。それと云うのも、名古屋城は、昭和20年5月14日B29の大空襲で、一部の石垣を残すだけで、焼け落ちてしまったのです。そして、再建されたのが昭和34年。今年でちょうど25周年を迎えることになり、それを記念して市民に少しでも近くで「金シャチ」を見てもらおうと名古屋城博が開かれることになったのです。

名古屋城の歴史は古く、いまから370年程前、徳川家康が加藤清正らに命じて、つくらせたものです。城をつくるにあたって、木材を運ぶための堀川運河もつくっています。そして、運河沿には、いまも、城下町の面影を残すたたずまいがあります。名古屋城博は9月29日にオープンし、11月25日まで開かれます。城内には、江戸時代の城下町もつくられ、訪れる人々に人気を集めています。しかし、何んといってもお目当は、山吹色に輝やく「金シャチ」。この「金シャチ」水をよぶといわれていますが、今年は台風上陸は0、どうやら、この「金シャチ」水ではなくお金を呼びそうな気配です。